

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670600018		
法人名	特定非営利活動法人にしいや		
事業所名	グループホームもみじ		
所在地	徳島県三好市西祖谷山村西岡向110-1		
自己評価作成日	平成30年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然環境に恵まれたところに位置している。寒さが厳しい冬季以外は外出をし散歩を楽しんだり四季折々の自然に四季を感じていただける環境にあり、また畑での旬の野菜を作付け収穫し働く喜びや生育の楽しみ、収穫の喜び、美味しいいただけるありがたさを感じていただける。また、週1回定期的に歯科往診があり、治療や口腔ケアの支援を行っている。月1回理学療法士の指導を得て個別のリハビリを行っている。また、週1回ハーモニカ演奏の慰問、月1回のオカリナ演奏慰問があり生活に刺激がある。利用者が心身ともに健康で自分らしく穏やかに生活できるよう一人一人の能力に応じた生活を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者一人ひとりが住み慣れた地域で、四季折々の自然に触れながら、その人らしく、楽しみや喜びをもって穏やかに暮らすことができるように支援している。事業所では、利用者の手芸や折り紙作品を展示したり、育てた野菜やそば粉で作った団子を来訪者にふるまったりして、利用者の活躍の場をつくっている。また、健康や体力維持のため、音楽を取り入れたりリハビリや口腔ケアに取り組んでいる。職員は、利用者との日頃の関わりの中で、利用者が求めることを受け止め、利用者とのように関わることなど、支援のなかで直面した課題をそのつど職員で話しあい、研修を積み、利用者が温かい気持ちで過すことができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し、日常生活での問題や要望などを検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。	事業所は、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げている。職員は、理念を共有し、自分たちが暮らしたいと思う事業所の姿を思い浮かべながら、利用者と向き合い、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校保育園、婦人会、老人会、地区住居会、個人の慰問があり、知人に会えることを楽しみにされている。	事業所には、日常的に地域住民の来訪がある。地域の小学生や婦人会、ボランティアグループと歌や踊り、手遊びなどをとおして交流している。また、地域の中学校の運動会に参加するなど、相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の慰問時に認知症について理解していただけるようその都度説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、対象期間内のサービス内容や関係行事、職員研修の参加状況等について説明や状況報告を行い、それぞれの立場や異なる角度からの意見をいただき、改善や取り組みの必要性の高いものから順次対応している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の日頃の取り組みや利用者の日頃の暮らしぶりを報告し、意見をもらっている。また、水源の確保など、事業所が直面している環境整備について提案や支援を得ることもある。得られた意見は職員間で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	総合支所を訪れ、不定期ではあるが情報交換を行うよう心がけている。	職員と市担当者は、日頃から情報交換を行っている。みよし広域連合や福祉関係の機関とも連絡を取り、利用者の暮らし方やニーズについて相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様本意の心のケアを心がけているので、生命に危険が及ぶこと、他の方に危険行為がある以外には行ってはならない事を常々話し合っている。	職員は、身体拘束の内容とその弊害について理解している。職員間で事例検討をしたり、認知症について話しあったりして、理解を深めている。職員は、利用者の気持ちに寄り添い、自分だったらどうしてほしいのかを考えながら、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の施錠をしない。言葉の暴力、肉体的暴力をしない。日常的に申し送り時に確認し合っている。全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職場内で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し充分理解を頂いてから、納得されて安心されてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所されたとき気安く職員に離せる雰囲気作りを心掛け意見や苦情がないか聞いている。御家族からの相談、依頼、苦情については早々に毎日の申し送り時、リーダー会議、モニターリング時に話し合っている。	職員は、家族の来訪時に意見や要望を伝えてもらいやすい雰囲気づくりに努めている。また、介護記録の掲示や便りを送付し、情報提供することで、家族が意見を出しやすい工夫をしている。出された意見は職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、リーダー会議、モニターリング時に話し合っている。	管理者は、日頃の業務のなかで職員の意見や提案を聞いている。年2回の個人面談や男女別での懇談会など、職場環境や運営について率直な意見を出しやすい場づくりを行っている。出された意見は、運営面に反映することで、職員の自主性を引き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、仕事のしやすい環境づくりについて共に協議したり、ねぎらいの言葉や叱咤激励をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、個々のレベルを把握したうえで、質の向上になるよう、職場内研修や職場外研修を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行えていない。地域診療所の声掛けで、行政や各介護職員との交流会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初に本人の希望や要望を聞き、計画に反映している。モニタリング会議で状況の変化を確認し計画に反映している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し、要望等を聞いている。家族の意向もふまえた計画作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく家族の希望や要望にそったサービスとなるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目指している。利用者様と職員は家族の一員として一緒にできることは一緒にお手伝いをするこも遣り甲斐に繋げられるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族と共に食事会を開催している。利用者、家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回利用者の日頃の生活の様子と写真を送付して、近況を把握し安心していただけるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談のうえで、本人の要望に出来るだけ添えるよう努めている。	事業所では、利用者が墓参りに行ったり、昔の職場等を見に行ったりするのを支援している。利用者の希望を引き出し、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の意見を聞き、納得を得たうえで支援するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は状況を聞く程度の取り組みとなっている。また、退去後も家族の相談に応じる等配慮に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞いている。また、本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努め、困難な場合には家族から話をしていただき納得を得ている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、利用者の何気ない一言や表情の変化を大切にしている。意志の表出が困難な利用者については、本人本位に話しあい、利用者のためになにができるか検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者を理解することにより、安心していただけ穏やかな生活になるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の24時間の姿を日誌に記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り、気配りのある支援を心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録を活用し、家族と相談した内容、本人や家族に尋ねた内容を計画に反映している。	事業所では、利用者や家族の意見や希望を反映した介護計画を作成している。医療や介護の関係者で利用者一人ひとりの残存機能や健康、希望、心のケアについて話しあい、チームで支援に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り、気配りを心がけ安心して満たされた生活が送れるように計画に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員から出された意見等を職員間で話し合っって状況に応じた柔軟な対応をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画を、なるべく促せるようにイベントを実施している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。地域以外の遠くにある病院は家族に対応してもらっている。	事業所は、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。市外の医療機関の受診には家族が付き添い、普段の体調や受診結果は家族と事業所間で共有し、対応している。歯科の訪問診療があり、利用者が適切な医療を受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域心療所や県立病院に相談している。また、利用者の状況に応じて、医師と相談し、訪問看護までにつなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院にいたった場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡をし要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医に相談を行っている。また、今後の対応について家族、医師、職員間で話し合っている。	事業所では、入居時の段階で利用者や家族に重度化や終末期における事業所の対応について説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族や医師、関係者で話しあい、対応方針を共有している。事業所での対応が難しい場合には、必要な機関と連携を図り、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制は出来ているが、応急処置についてはできていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は年2回実施している。地域状況もあり近隣住民の協力が得られにくい。	年2回、避難訓練を実施している。職員は、ハザードマップで事業所の立地について把握し、地域の消防団に参加している。事業所は、地域防災の拠点となっており、避難所での生活の際に、認知症の人に対して理解を得られるよう、地域に発信している。居室入り口には、利用者一人ひとりの移動手段について表示し、スムーズな避難につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神的に安心した生活ができるよう、一人ひとりを大切な人として対応するように心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。職員は、利用者の尊厳を守りつつ、親しみを感じられるような言葉かけを心がけている。日頃の関わりのなかでプライバシーを確保しつつ、その人の思いを自然に引き出すことができるようなケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを話せるような環境作りを心がけている。素直な気持ちを引き出せるよう会話を増やし、自分でできる範囲の判断をしていただけるように支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状況に合わせて、満足できる一日になるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時好みの服を選んでいただいたり、外出時の服装を選んでいただいている。行事の前には爪の手入れ、お化粧品など意思にそって支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたい物を聞いてできる物を作ったり、利用者と一緒に食事作りをしている。食後の片付けも出来る方に手伝っていただいている。	食事の献立は、利用者と相談しながら、一緒に考えている。煮物や郷土料理、季節の行事食、移動販売での買い物、菜園等も利用し、食事が楽しいものになるよう工夫している。食事の準備や後片づけなど、利用者一人ひとりの力量に応じて調理に参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状況について、職員から出された意見等を職員間で話し合い、状況に応じて柔軟に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科診療で歯の治療、義歯の調整、口腔ケアを行っている。その都度歯科医師、歯科衛生士の指導、助言をいただき、個々に応じた支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを参考に個々の状況を把握して気分良くトイレの使用ができるよう言葉掛けの方法等を工夫して自立支援にむけて努力している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけで、トイレでの排泄を支援している。夜間は、安眠を妨げることのないように、一人ひとりに合わせた配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取内容について、水分摂取量についての記録をチェックし運動を取り入れるなどの工夫をしている。それでも便秘になる場合は医師に相談して指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、順番は利用者の意向により決めている。その都度希望を取り入れ入浴が楽しめるように心がけている。	事業所では、ユニット間で協力して、利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、日を変えるなど、無理強いすることなく、ゆったりと入浴ができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族、知人、本人に昔の話を聞き、個々の理解を深め、その時々状況に応じた支援を心がけている。馴染みの飲物を出しほった一時を過ごして頂けるよう工夫したり、清潔な布団で心地よく安心して眠って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全職員が行い薬について理解している。誤薬がないよう再確認を行うようにしている。症状の変化については、その都度全職員に明確に申し送りして伝達し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意思を尊重し、無理のないよう食事の準備、食後の片付け、洗濯、掃除を手伝っていただけるよう工夫をしている。趣味を生かし様々な制作にも取り組んでいる。個々の出来ることを探り、生きがいや、やりがいを持って活躍できるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは天候の良い日には施設周辺の散歩を楽しめるよう工夫をしている。近隣の中学校の運動会、文化祭の行事に参加している。四季を感じられるよう新緑の候、紅葉狩り等を楽しまれたり外食、買い物を楽しめるよう支援をしている。	事業所では、気候の良い日に周辺の散歩に出かけている。事業所の前にテントを張ってお弁当を食べたり、地域の行事やイベント広場等にも出かけたりにしている。利用者一人ひとりの希望にあわせて、利用者が気になっている場所へ出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には、家族の同意のもと本人に持っていていただくが、お金の自己管理が出来ない利用者に対しては、家族の要望により職員が管理をし、必要に応じて自由に使えるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により電話の使用、手紙のやり取りを自由にできるよう配慮している。利用者の依頼により職員が手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファ、廊下には長椅子を設置し外の景色を眺めながら四季折々の山の木々、草花が眺められ、思い思いにゆったり過ごして頂けるようにしている。	事業所は、居間を明るく、清潔に保ち、利用者の作品や子どもたちから送られた絵を飾っている。調理の音や匂いが漂い、一日の流れを感じることができる。洗濯物畳みや、リハビリ、利用者同士のおしゃべりなど、利用者一人ひとりが思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と玄関前にはベンチ、リビングにはソファとテーブル、廊下には長椅子を設置し利用者が思い思いの場所でのんびり過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みのある品物を持ち込んでいただき、安らぎがあり落ち着いた雰囲気のある部屋になるよう工夫をしている。	居室には、利用者の馴染みのあるものを持ち込んでもらっている。写真や手芸などの趣味の作品を飾り、利用者一人ひとりの個性を感じることができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を貼り、よく行く場所にはマークをつけるなどの工夫をし分かりやすくしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として「家庭的な環境の中で自分らしく穏やかな生活を支援します」を掲げている。リーダー会議やモニタリングなどを利用し、日常生活での問題や要望などを検討している。理念に基づき検討した内容を職員で共有し支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校保育園、婦人会、老人会、地区住居会、個人の慰問があり、知人に会えることを楽しみにされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の慰問時に認知症について理解していただけるようその都度説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、対象期間内のサービス内容や関係行事、職員研修の参加状況等について説明や状況報告を行い、それぞれの立場や異なる角度からの意見をいただき、改善や取り組みの必要性の高いものから順次対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	総合支所を訪れ、不定期ではあるが情報交換を行うよう心がけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様本意の心のケアを心がけているので、生命に危険が及ぶこと、他の方に危険行為がある以外には行ってはならない事を常々話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の施錠をしない。言葉の暴力、肉体的暴力をしない。日常的に申し送り時に確認し合っている。全職員がマニュアルを確認し理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については職場内で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を説明し充分理解を頂いてから、納得されて安心されてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所されたとき気安く職員に離せる雰囲気作りを心掛け意見や苦情がないか聞いている。御家族からの相談、依頼、苦情については早々に毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、リーダー会議、モニタリング時に話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、仕事のしやすい環境づくりについて共に協議したり、ねぎらいの言葉や叱咤激励をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に個別ミーティングを行い、個々の意見等を聞いて、個々のレベルを把握したうえで、質の向上になるよう、職場内研修や職場外研修を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域性もあって同業者との交流は行えていない。地域診療所の声掛けで、行政や各介護職員との交流会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初に本人の希望や要望を聞き、計画に反映している。モニタリング会議で状況の変化を確認し計画に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と相談し、要望等を聞いている。家族の意向もふまえた計画作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく家族の希望や要望にそったサービスとなるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境作りを目指している。利用者様と職員は家族の一員として一緒にできることは一緒にお手伝いをするこも遣り甲斐に繋げられるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族と共に食事会を開催している。利用者、家族、職員が意見交換をしながら楽しんでいる。また、家族に月1回利用者の日頃の生活の様子と写真を送付して、近況を把握し安心していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談のうえで、本人の要望に出来るだけ添えるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者の意見を聞き、納得を得たうえで支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は状況を聞く程度の取り組みとなっている。また、退去後も家族の相談に応じる等配慮に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活状況を家族から聞いている。また、本人の希望をなるべく生活の中で反映できるよう努め、困難な場合には家族から話をしていただき納得を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者を理解することにより、安心していただけ穏やかな生活になるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の24時間の姿を日誌に記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り、気配りのある支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録を活用し、家族と相談した内容、本人や家族に尋ねた内容を計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、職員間の話し合い等で細かな姿を見つめ、個々の心のケア、身体ケアに繋がるよう些細なことにも目配り、気配りを心がけて安心して満たされた生活が送れるように計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員から出された意見等を職員間で話し合っって状況に応じた柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービス事業所として、地域住民の参画を、なるべく促せるようにイベントを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、利用者の望むかかりつけ医の受診を支援している。地域以外の遠くにある病院は家族に対応してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域心療所や県立病院に相談している。また、利用者の状況に応じて、医師と相談し、訪問看護までにつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	やむを得ず入院にいたった場合でも、定期的に訪問し、担当看護師に状況を聞いている。また、家族に連絡をし要望を聞いている。家族から出された意見や要望は病院との話し合いの中で検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態に変化が見受けられた際は、家族と主治医に相談を行っている。また、今後の対応について家族、医師、職員間で話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡体制は出来ているが、応急処置についてはできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所や緊急連絡体制を整備している。避難訓練は年2回実施している。地域状況もあり近隣住民の協力が得られにくい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神的に安心した生活ができるよう、一人ひとりを大切な人として対応するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを話せるような環境作りを心がけている。素直な気持ちを引き出せるよう会話を増やし、自分でできる範囲の判断をしていただけるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状況に合わせて、満足できる一日になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時好みの服を選んでいただいたり、外出時の服装を選んでいただいている。行事の前には爪の手入れ、お化粧品など意思にそって支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたい物を聞いてできる物を作ったり、利用者と一緒に食事作りをしている。食後の片付けも出来る方に手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状況について、職員から出された意見等を職員間で話し合い、状況に応じて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科診療で歯の治療、義歯の調整、口腔ケアを行っている。その都度歯科医師、歯科衛生士の指導、助言をいただき、個々に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを参考に個々の状況を把握して気分良くトイレの使用ができるよう言葉掛けの方法等を工夫して自立支援にむけて努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取内容について、水分摂取量についての記録をチェックし運動を取り入れるなどの工夫をしている。それでも便秘になる場合は医師に相談して指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、順番は利用者の意向により決めている。その都度希望を取り入れ入浴が楽しめるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族、知人、本人に昔の話を聞き、個々の理解を深め、その時々状況に応じた支援を心がけている。馴染みの飲物を出しほった一時を過ごして頂けるよう工夫したり、清潔な布団で心地よく安心して眠って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は全職員が行い薬について理解している。誤薬がないよう再確認を行うようにしている。症状の変化については、その都度全職員に明確に申し送りで伝達し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意思を尊重し、無理のないよう食事の準備、食後の片付け、洗濯、掃除等を手伝っていただけるよう工夫をしている。趣味を生かし様々な制作にも取り組んでいる。個々の出来ることを探り、生きがいや、やりがいを持って活躍できるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは天候の良い日には施設周辺の散歩を楽しめるよう工夫をしている。近隣の中学校の運動会、文化祭の行事に参加している。四季を感じられるよう新緑の候、紅葉狩り等を楽しまれたり外食、買い物を楽しめるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には、家族の同意のもと本人に持っていていただくが、お金の自己管理が出来ない利用者に対しては、家族の要望により職員が管理をし、必要に応じて自由に使えるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により電話の使用、手紙のやり取りを自由にできるよう配慮している。利用者の依頼により職員が手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファ、廊下には長椅子を設置し外の景色を眺めながら四季折々の山の木々、草花が眺められ、思い思いにゆったり過ごして頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と玄関前にはベンチ、リビングにはソファとテーブル、廊下には長椅子を設置し利用者が思い思いの場所でのんびり過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた馴染みのある品物を持ち込んでいただき、安らぎがあり落ち着いた雰囲気のある部屋になるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を貼り、よく行く場所にはマークをつけるなどの工夫をし分かりやすくしている。		